

島原警察署協議会第3回会議議事概要

日 時	令和4年7月22日(金) 13時30分～15時15分
場 所	島原警察署講堂
出 席 者	1 協議会 岩村会長 安居院委員 大原委員 片山委員 隈部委員 橋本委員 永代委員 2 警察署 竹田署長 松田副署長 小田警務課長 森田生活安全課長 大曲交通課長、矢口警備課長 3 書 記 警務係長
会議の状況	1 前回会議での協議会の意見に対する推進状況について 署長から、前回協議会の提出意見である「SNS等を利用した犯罪被害防止のための各種防犯対策の推進」に対する推進状況について、次のとおり説明があった。 (1) 市内の携帯電話販売店4店に対して、SNS利用による犯罪被害について説明し、フィルタリング導入に関するチラシを配布の上、中学生、高校生等に対するフィルタリング導入の推奨を依頼した。 (2) 管内の中学・高校の生徒を対象に、情報モラル講話を実施し、SNSやインターネット利用による犯罪被害防止を呼び掛け、個人情報保護、人権侵害、ネットワーク上のルールやマナーなどについて指導した。 (3) 令和4年6月26日、有明町文化会館において、NPO法人ふれあいネットワーク・ピアの利用者や職員に対し、SNS利用による犯罪被害防止について講話を実施した。 (4) 令和4年5月12日、島原市役所で開催された「大手門市」において、島原市と共同し、参集者に対して、SNSやインターネット利用による犯罪被害防止等を呼び掛け、チラシや広報グッズを配布した。 (5) 島原市役所や大型商業施設にSNS等利用による犯罪被害防止等のポスターを掲示して広報を実施するとともに、島原市職員に対し、チラシの配布を依頼した。 2 令和4年4月から6月までの業務重点推進結果について

会議の状況

署長から次のとおり説明があった。

- (1) 警察官Ⅰ類採用募集活動の推進
 - (2) 安全で安心して暮らせる犯罪の起きにくい社会づくりの推進
 - ア 刑法犯認知状況（令和4年6月末現在）
 - イ 子供・女性に係る犯罪抑止対策の推進
 - （ア）小学・中学・高校に対する防犯講話
 - （イ）女性（外国人就労者）に対する防犯講話
 - （ウ）地元ケーブルテレビを活用した広報活動
 - ウ ニセ電話詐欺対策の推進
 - （ア）年金支給日におけるニセ電話詐欺被害防止キャンペーン
 - （イ）ラジオを活用した広報活動
 - （ウ）大型ディスプレイ等による広報活動
 - （エ）生活安全ニュースの配布
 - (3) 窃盗犯の検挙推進
 - (4) 暴力団の壊滅に向けた取組
 - (5) 交通事故の抑止と飲酒運転の根絶
 - ア 令和4年4月から6月末までの交通事故発生状況
 - イ 交通事故の抑止
 - （ア）春の全国交通安全運動における活動
 - （イ）交通安全講話、自転車教室の実施
 - （ウ）地元ケーブルテレビ、FMラジオによる呼び掛け
 - ウ 飲酒運転の根絶
 - (6) 梅雨期に備えた各種体制の確立
 - ア 島原警察署災害危険箇所実地踏査
 - イ 島原市主催「令和4年度防災対策現地視察」
 - ウ 九州大学等主催「第31回平成新山防災視察登山」
 - エ 島原振興局主催「令和4年度危険箇所現地調査」
 - オ 署内訓練
 - （ア）部隊活動訓練
 - （イ）災害用資機材の使用訓練
- 3 令和4年7月から9月までの業務重点推進計画について
署長から、次のとおり説明があった。
- (1) 警察官Ⅲ類等採用募集活動の推進
 - (2) 安全で安心して暮らせる犯罪の起きにくい社会づくりの推進
 - ア 夏休みにおける少年の非行・犯罪被害防止
 - イ ニセ電話詐欺被害防止
 - (3) 雑踏事故の防止
 - (4) 薬物事犯の検挙推進
 - (5) 窃盗事件の検挙推進
 - (6) 交通事故の抑止と飲酒運転根絶

	<p>(7) 大規模自然災害等緊急事態への的確な対処</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 関係期間と連携した各種対策の推進及び初動体制の確立 イ 各種教養を通じた若手警察官の早期育成に向けた取組の推進 <p>4 令和4年下半期の速度取締り指針について</p> <p>交通課長から、令和4年下半期の速度取締り指針について、次のとおり説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 速度取締り指針 (2) 島原警察署管内における交通事故の発生状況 (2) その他の交通指導取締り
<p>提 出 意 見</p>	<p>○ 子供・高齢者の交通事故防止対策の推進について</p> <p>7月から9月にかけて、夏休みや新学期など、子供たちを取り巻く交通環境が変わることから、交通事故から子供たちを守っていただきたい。</p> <p>また、高齢者が当事者となる交通事故が後を絶たないことから、高齢者への交通事故防止についても取組を推進してもらいたい。</p>